

小学校中学年を対象とした講義型防災教育の取り組み
— 白浜町西富田小学校での実施例 —

Disaster Prevention Education for Middle Grades of
Nishi-Tonda Primary School in Shirahama Town

○石垣泰輔・馬場康之・中島隆介・島田広昭・戸田圭一

○Taisuke ISHIGAKI, Yasuyuki BABA, Ryusuke NAKAJIMA, Hiroaki SHIMADA, Keiichi TODA

Education is one of important methods to prevent or reduce damage of disasters. Our research group has been conducted some disaster prevention education for over 600 primary school pupils of middle grades by using two specially designed facilities. One of them is a diorama model (cf. P58), and another one is a real size model of door (cf. the photo on this paper). To conduct this type of education, there are some restrictions of facility usage. New type education without these facilities was tested in a primary school and its effect has been evaluated with comparison to the result of experience-based education.

1. はじめに

水災害現象の理解および浸水時避難の危険性を
知することは、水災害被害の防災軽減に役立つこ
とは明白である。そのための防災教育としてジオラ
マ模型（詳細はポスター58を参照）と可搬式浸水
時避難体験ドア模型（左の写真）を用い、小学校
中学年（3年生および4年生）の600名を上回る
児童を対象に実施してきた。このようなジオラマ
模型を用いた観察型やドア模型を用いた体験型の
防災教育の実施には装置運搬業者および実験補助
者の手配などが必要となることから実施が制約さ
れているのが現状である。この問題を解消するこ
とを目的に、同様の効果が期待される講義型防災
教育の取り組みと体験型防災教育効果との比較を
行ったのでここに報告する。

2. 講義型防災教育の実施

講義型防災教育を、和歌山県白浜町立西富田小
学校の3年生2クラスの児童を対象に、平成27
年11月6日（講義組22名、実験組21名）および
平成28年11月4日（講義組34名、実験組34名）
に実施した。なお、教育効果の比較を行うため、1
クラスは講義型防災教育を、他のクラスには体験
型防災教育を実施した。また、講義担当者による
効果の比較を行うことを目的に、平成27年は防災
関係者の馬場が、平成28年は研究室のゼミ等で複
数回の模擬講義を行った関西大学4年生の中島が
担当した。講義では、馬場が作成した内水氾濫、

外水氾濫、高潮および津波による災害事例と現象
を理解するための基礎知識を対話形式のコンテン
ツで構成されたパワーポイントファイルを用いた
約20分の説明と、水災害現象に関する数種類の画
像を用いたジグソーパズル（右の写真）への取り
組みと各画像の説明（約20分）を行った。

3. 講義型防災教育の効果

防災教育実施前（約1月前）と実施直後にアン
ケートを行い、その中の6項目（内水氾濫・外水
氾濫・地下浸水・地下貯留施設に関する理解度、
水害危険性認知程度、および家族間打合せの有無）
の5段階の回答から項目ごとに評価し、6点満点
で採点した結果を用いて防災教育の効果を見た。
その結果、平成27年実施において事前評点3.10
から5.29へと71%増、平成28年実施では事前評
点3.44から5.39に57%増と1.5倍以上の効果が
見られ、コンテンツを理解した担当者が講義を実
施すれば同様の効果が得られることが確認された。
また、同時に実施した体験型による効果の65%増
（H27）、72%増（H28）と遜色のない結果となつた。

